

次世代の党 千葉県議会第一支部(山武市)の政策が発表されました。

成東駅を「山武成東駅」に 市の知名度アップで、人口減少に歯止めを

「山武市から来ました」と言えますか？

「今日はどちらからいらっしやいましたか？」

旅行や出張に行った先でこのよ
うな会話になったご経験はあると
思います。山武市民の皆さんは
こんな時、どのように応えていら
っしゃるでしょうか。

「千葉の外房」「九十九里浜の
近く」「成田空港の海側」「成東
の辺り」など、恐らく相手に合わ
せて色々と表現を工夫する必要に
迫られると思います。

九年前に合併によって誕生した
山武市ですが、残念ながら日本人
の殆ど、千葉県民でもかなりの割
合で「山武市」という地名、まし
て「さんむ」という読み方までは
未だ認識すらされていないのが現
実ではないでしょうか。

知名度が低ければ、
何も始まらない

「知名度が低いから山武市はダ
メ」などというつもりは全くあり
ません。しかし、知名度の低さが
地域発展の足かせになっているこ
とは否定できません。

人口は合併後の九年間で約五千
人減少しています。これを放置す

さんむなるとう

れば地域はみるみる衰退してしま
うでしょう。

市の人口を増やす、あるいは減
らさないようにするには、他の市
町村から沢山の人が転入して来て
もらう必要がありますが、引越
しを考える時、企業が工場を造ろ
うとする時、あるいはどこかへ遊
びに行こうとする時、

「そうだ、山武市に行こう！」
という発想を、今どれだけの人が
持つでしょうか。

「駅名」は最高のCM
媒体

東京から千葉にかけての総武本
線の駅、電車内で「成東」という
駅名が何度アナウンスされ、路線
図や時刻表に表記されているか想
像してみてください。



成東駅が新たな歴史を刻み、地域再生の切り札となるか？

成東駅が「山武成東駅」になれ
ば、毎日数千人あるいは数万人と
いうJR線の乗降客の目と耳に、
この先ずっと「山武(さんむ)」
という地名が刻まれ続ける様にな
ります。

駅名改称は「シティセールス」
の最大の切り札です。

一兆円プロジェクト
「地方創生」がチャンス

現在国家プロジェクトとして進め
られている「地方創生」の予算規
模は一兆円を超えられると言われて
います。日本には約千七百の市町村
があります。これを仮に均等に
配分したとすると、一市町村辺り
五、六億円となります。

駅名を改称するには、看板、路
線図、料金表、時刻表といった目
に見える物の他、JRの様々なシ
ステムの改修など膨大な作業とそ
れに伴う経費が発生します。一駅
あたり一億円〜二億円の費用負担
が必要といわれていますが、国の
政策を上手に活用すれば、今なら
十分に実現可能です。

見過ごせない
山武市の人口減少

日本全体が人口減少時代に移行
する中、それぞれの市町村は多く
の人が移り住んで来たくなる、あ
るいは住民がずっと住み続けたく
なる様な取り組みを真剣に行わな
ければ、十年先、二十年先の地域

格差は広がる一方です。

人口が減れば地域の経済活動は
縮小し、市の税収も減少し、それ
は結果として住民サービスの低下
に繋がります。そうなった時、も
し隣りに魅力ある住民サービスを
行っている市町村があればどうな
るでしょうか。

雄大な九十九里の海、肥沃な田
園、豊かな自然に囲まれながら、
東京や成田空港へのアクセスも便
利な山武市には、まだまだ大きな
可能性があるはずだ。

今、この問題に真剣に向き合っ
て、それとも目を逸らしてしまう
のか、未来の山武市の姿は、今を
生きる私たち一人一人がどう考え
るかによって大きく変わるので
はないでしょうか。

筆者紹介：鈴木 まさや 次世代の党千葉県議会第一支部長



昭和45年2月生まれ(45歳)
東京都大田区出身・横浜育ち
和光大学経済学部経済学科 卒業
成田空港南ロータリークラブ 会員
東金法人会・山武市商工会
山武市観光協会 法人会員
山武市内の有機篤農家との出会いをき
っかけに、平成22年に山武市に移住。殿
台で「ワイルドアスタートレーディング
(株)」を創業。
山武市の行政問題に深い感心を持ち、平
成27年1月にインターネットニュース
サイト「山武ジャーナル」を開設。



次世代の党は、次世代の人々のために「**新保守主義**」に基づいた改革を断行し、自立した国民・地域・国家をつくることを目標に掲げ、**平沼赳夫党首、石原慎太郎最高顧問**をはじめとする、真に国を思う国会議員らによって平成26年に設立された新党です。

次世代の党 主な基本政策

- ・ 参政権は国民固有の権利、外国人地方参政権に反対。
- ・ 生活保護は日本人限定。
- ・ 自主憲法の制定。
- ・ 拉致問題の解決。



千葉県議会第一支部長
鈴木まさや

党首
衆議院議員
平沼 赳夫

次世代の党
党首 衆議院議員 平沼 赳夫



工事が中断し、分断されたまま放置されている県道(山武市埴谷・山武市美杉野)



木戸川河口の橋梁新設工事が中断されている中、小松側の橋台(橋を支える部分)となるはずの部分に防潮堤が建設された。(山武市木戸・山武市小松)



放置された公共事業
毎日が損失の積み重ね

山武市内には、左に示した様に工事が中断されたまま何年も開通しない道路が散見されます。予算の確保、用地買収など、道路が完成するまでにはクリアしなければならぬ様々な課題があることは理解できます。しかし、ここまで実施されて完成を見ない工事の費用は、言うまでもなく私たちの税金で賄われ

ています。道路は人や車が通行できて初めて価値を発揮するものです。通行できない道路を放置することは、これまで注ぎ込んできた税金が何も生み出していないことを意味します。さらに言えば、その費用を別の事業に振り向けていけば、あるいは単純に銀行に預けているだけ

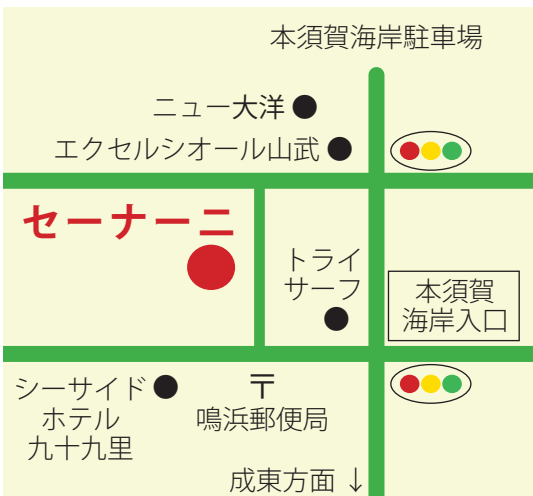
でも一定の価値を生み出すことが出来る訳です。これを一日一日損失を積み重ねていることと同じです。

壊す前提の工事なのか？

蓮沼海浜公園から本須賀へかけて四車線道路を整備する都市計画に基づき、木戸川の河口付近に新しく橋を架けることになつていきます。しかし、こも一部用地買収と整地が行われたまま放置された状態になつていきます。東日本大震災に伴う津波で大きな被害を受けた木戸川では、現在防潮堤の建設工事が進んでいますが、近い将来橋脚工事をを行うはずの部分にも防潮堤が築かれました。作る時、この部分の防潮堤はどうするのでしょうか。

都市計画と防災復興計画は別事業なのかもしれないが、いざいざ私たちが税金で行われるものではないのか？

計画の放置で日々損失を積み重ねている上に、作つたばかりの防潮堤の一部をすぐに壊すようなムダが発生する様なことであるならば、もう一度行政の仕組みを検証し直す必要があるのではないのでしょうか。



セーナーニレストラン本須賀店
山武市本須賀3813-1
0475-78-3768

鈴木まさやサンデーミーティング

日曜の午後、ゆったりした雰囲気のお店でお茶を飲みながら気軽にお話ししてみませんか？

予約不要 参加費：ワンドリンクご注文下さい

開催予定日 平成27年3月1日、8日、15日
22日、29日の毎日曜日
14:30~ (終了時刻未定・入退出自由)

開催場所 セーナーニレストラン本須賀店

お問い合わせ 次世代の党千葉県議会第一支部
TEL: 050-5848-8158